



向井潤吉《マタギの家》[秋田県北秋田郡阿仁町根子] 1963年 世田谷美術館蔵
* [] 内の地名の表記は、制作時の記録等に基づきます。

世田谷美術館コレクション 向井潤吉展

東北・新潟を見つめる旅

2021

9.18 Sat. — 11.3 Wed.

開館時間 | 午前10時～午後6時（最終入館は午後5時30分）

休館日 | 毎週水曜日 ※11月3日（水祝）は開館

観覧料 | 一般 600円 65歳以上 75歳未満 300円
小・中・高校生 250円 75歳以上 無料

□ 主催 喜多方市美術館 □ 特別協力 公益財団法人せたがや文化財団 世田谷美術館 □ 協力 公益財団法人 野口英世記念会
□ 後援 福島民報社、福島民友新聞社、朝日新聞福島総局、読売新聞東京本社福島支局、毎日新聞福島支局、産経新聞福島支局、
河北新報社、NHK福島放送局、福島テレビ、福島中央テレビ、福島放送、テレビユー福島、ラジオ福島、ふくしまFM、
喜多方ンティエフエム



喜多方市美術館



《六月の田園》[岩手県岩手郡滝沢村] 1971年



《奥会津十月》[福島県南会津郡只見町] 1974年



《雨後檐下宿》[山形県上山市檐下] 1970年

向井潤吉(1901-1995)は、京都出身の洋画家です。関西美術院に学び、ヨーロッパ留学を経て、1933(昭和8)年に東京・世田谷にアトリエを構え、長く創作の拠点としました。終戦の年の秋に新潟県川口村(現長岡市)を訪れ、古民家をモチーフとした作品を制作して以来、日本各地を旅しながら、高度成長期の中で失われゆく茅葺き屋根の古民家を40年以上にわたって描き続けました。

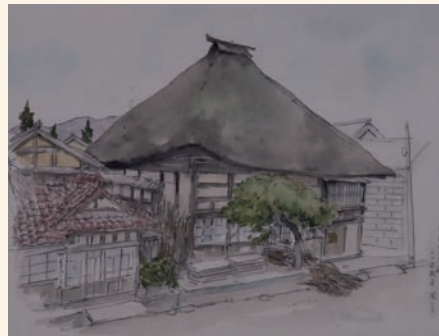
向井の制作スタイルは心惹かれる風景や民家の前にイーゼルを立て、その場の風光を感じながら作品を描くというものでした。作品には、風景そのものだけでなく、地方独特の自然環境や人々の暮らしに対する感慨までもが表現されており、観る人への共感を誘います。

古民家を巡る旅の中で、向井は東北地方に度々訪れており、特に岩手・山形・福島の3県には頻りに足を運びました。県内では初夏から晩秋にかけて、中山宿などの古くからの宿場町、猪苗代町や南会津の町村を取材しています。

本展覧会は向井潤吉作品を多く所蔵する世田谷美術館の特別協力のもと、東北地方と新潟県を題材とした油彩画・水彩画約45点を紹介します。作品を通して、かつての風景に想いを馳せ、それぞれの地域に根ざした暮らしの多彩さを感じていただければ幸いです。



《北端の村》[青森県下北郡東通村尻屋、尻屋岬入口] 1962年



《七ヶ宿街道関》[宮城県刈田郡七ヶ宿町] 1961年頃



《与板にて(新潟県)》[新潟県長岡市与板町] 1945-1960年頃

* [] 内の地名の表記は、制作時の記録等に基づきます。
* 掲載作品はすべて世田谷美術館蔵

関連事業

※状況により変更する場合があります

講演会「向井潤吉の画業」

10月9日(土) 14:00~

会場: 喜多方プラザ小ホール

内容: 向井潤吉の生い立ちや展示作品、古民家を描いた歩みなどについてお話しいただきます。

講師: 橋本善八氏(世田谷美術館副館長兼学芸部長)

定員: 40名

参加費: 無料(要申込) ※観覧券の半券が必要です。観覧券は会場受付にてご購入いただけます。

学芸員による作品解説

10月16日(土)、10月30日(土) 14:00~15:00

会場: 喜多方市美術館展示室

内容: 展覧会内容と作品解説

定員: 10名

参加費: 無料 ※当日観覧券が必要です。

※新型コロナウイルス感染拡大の状況により内容を変更する場合があります。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、マスク着用と手指消毒等のご協力をお願いいたします。

◇ 交通アクセス

- ・JR喜多方駅から約1.5km 徒歩20分 タクシーで5分
- ・磐越自動車道会津若松ICから約19km 車で25分
- ・磐越自動車道会津坂下ICから約20km 車で25分
- ・会津縦貫道喜多方ICから約4km 車で10分

* 駐車場のご案内
お車で来館されるお客様は、喜多方プラザ文化センターの駐車場をご利用ください。



喜多方市美術館

〒966-0094 福島県喜多方市市押切2-2
Tel.0241-23-0404 Fax.0241-23-0406
URL: <http://www.kcmofa.com/>

次回展覧会のお知らせ

喜多方市美術館収蔵作品展

12月18日(土)~2022年1月10日(月祝)